

私の一文字

観光再生戦略委員会 副委員長
清水 新一郎

日本航空
取締役副社長執行役員



「感じる」その瞬間を大切にする

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、清水新一郎観光再生戦略委員会副委員長にご登場いただきました。

岡西 「感」という文字には、祈りに対して神様の心が動かされるという由来があります。そこで、躍動感や広がりを意識して書かせていただきました。この漢字を選ばれた思いをお聞かせください。

清水 私たちの仕事は、「動く」ことにかかわっています。場所の移動をすると、新たに感じるものがあります。心で感じるという人の行為は、情報のスピードが早まっても昔と大きく違うわけではありません。心で感じることにかかわる仕事をしているような気もして、この漢字を選びました。

岡西 私自身も、移動する際に見て感じたものを自分の心に記憶させて、文字を書くときに蘇らせています。旅が思うようにできないこの2年間があったので、動くことの意味をあらためて感じます。今後はどうなるのでしょうか。

清水 ビジネスの移動は少し減るだろうと思っています。オンラインでできることが広がったのは事実です。しかしリアル的重要さもあらためて認識されたと思います。場の空気を感じる、直接触れ合うことに重きを置いて、観光などの移動価値が高まっていくのではないのでしょうか。

岡西 動けない時間があったがゆえに、人として生きる上で「感じる」ことの大事さを強く思います。

日常的に「感」を育てるために大切にされていることはございますか。

清水 毎朝公園を散歩しているのですが、草木が日々変化し、少しずつ芽が伸びていく。いちいち確認するわけではないのですが、変化の中に身を置いているような気持ちです。海も好きなのですが、ただ浮いているだけという時間が好きですね。感覚を取り戻している思いです。美術展などの空間で過ごすのも好きですが、同じかもしれません。

岡西 感性をいろいろなところでキャッチされていらっしゃるなと思いました。共通して浮かんできたのは、「静か」という言葉ですね。公園でも、海の中でも、周囲を感じつつ静かに過ごしていらっしゃるイメージを持ちました。

清水 仕事に全身で取り組むことにも共通性があると思っています。毎日計器を見続けていると、トラブル時に「何か変だ」と感じる。サービスの最前線でも、お客さまに寄り添って、心で感じて、お客さまの反応を五感で感じて対応する。これがプロだと思いますし、経営破綻後にもう一度積み上げてきた自分たちの仕事の意味にもつながると思っています。

岡西 続けていく中で自分たちの感覚を養っていくという観点は、どこにも通じる重要な点ですね。

清水 一方で、「のりしろ」をつくらうという話もしています。集中の間にふとした間をつくり、自分を取り戻して次に向かえるようにすることが大事だと感じています。

書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。

